

Close-up!

創業の精神『熱と誠』を受け継ぐ百年企業

「技術で、熱く、世界を支える」を旗印に、安全・安心なくらしを支える

株式会社荏原製作所 富津工場

大正元年に大学発ベンチャー企業として創業し、高い技術とたゆまぬ努力で、今や世界に必要とされる企業に。社会インフラや産業になくてはならない巨大ポンプの製作を担う荏原製作所の富津工場長 岩元雅信氏に、熱い思いを伺いました。



総面積10万平方メートルを誇る富津工場



ポンプを中心として、さまざまな産業機械を製作している荏原製作所は、今年で創業112年です。

創業は1912年、つまり大正元年になります。創業者の畠山一清が東京帝国大学（現東京大学）在学中に井口在屋博士に出会い、井口博士の渦巻きポンプの理論に基づいた優れた製品を世に広めようと考えたようです。そして卒業後に『のくち式機械事務所』を設立しました。いわば、大正時代の大学発ベンチャー企業です。設立時は5〜6人の小さな会社でしたが、そこには「日本の近代化に貢献したい」「社会の課題を解決したい」という強い思いがあったと聞いています。

当時は日暮里に工場を構えており、1916年に東京市（現東京都）の下水道設備として、口径1140ミリの記録的な大型渦巻きポンプを製作しています。クレーン設備もない小さな町工場で

水道向けポンプの国産化や国産初のターボ冷凍機の完成を実現し、1938年に現在本社がある東京都羽田に本社および工場を移転しました。関係会社数は100を超え、従業員数は連結で2万人近くとなり、国内はもちろん世界中に拠点を持つようになった現在でも、社会の課題を解決していくという思いは脈々と受け継がれています。

世界中に広がりをもせる荏原製作所の製品ですが、富津工場はどのような役割を担っているのでしょうか？

富津工場は、荏原製作所の始まりであり中核製品でもある、カスタムポンプの生産工場です。

設計から部品の組み立てまで、お客さまの仕様に合わせてカスタマイズして



富津工場内に設置されたメモリアルルームには貴重な品々を展示



「荏原製作所のカスタムポンプは世界中で使われています」と語る富津工場長の岩元雅信氏

作るのがカスタムポンプです。その中で大きく分けると、洪水対策や農業灌漑設備などの社会インフラ用と、発電所や化学プラントなどの産業インフラ用があります。一般の方々が直接目にすることはありませんが、どちらも私たちの日常生活には欠くことのできないものです。これらはもともと羽田工場で作られていたのですが、業務の拡大に伴って2010年に富津にその機能を移転しました。海の見える開放感のある環境になって早14年。私もすっかり千葉に馴染んでいます。歩くことが大好きなので、休日にはあちこちウォーキングで散策し、道の駅を巡ったりもしています。今ではずいぶん千葉に詳しくなりましたよ。

[くらしを支える荏原の製品]



荏原製作所の製品は、さまざまな場所で活躍しています。なかでも、富津工場で作られる大型ポンプは、世界中の人々が安全・安心・快適にくらしを支える持続可能な社会の実現に貢献しています。

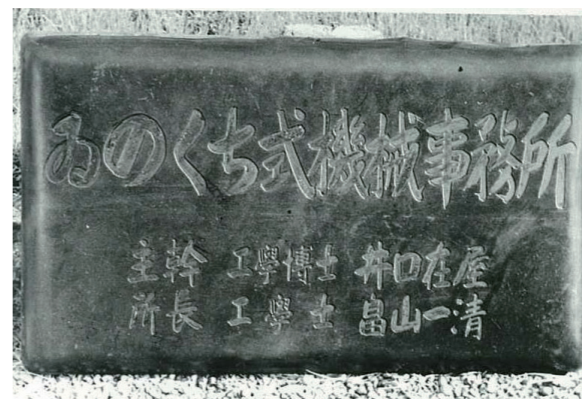


東京都浅草田町ポンプ所で使用された大型渦巻きポンプ

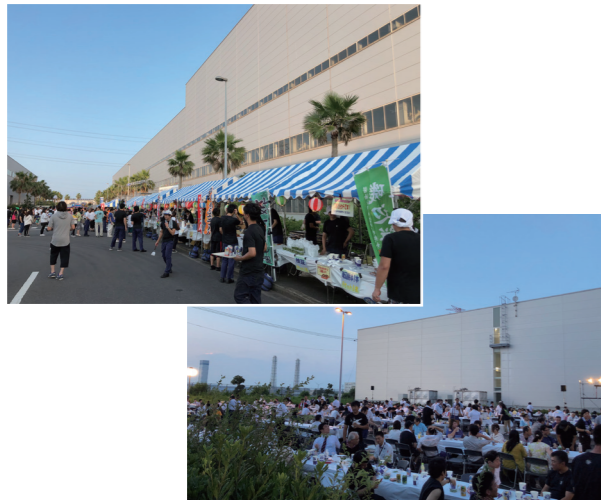
製作されたこのポンプは、畠山一清の『熱と誠』の精神を象徴するモニュメントとして、荏原製作所羽田本社ビルに設置されています。現在の社名、株式会社荏原製作所となったのは1920年のことで、あのくち式ポンプ以外の製品も手掛けるという趣旨での変更でした。『荏原』という名前は、東京都荏原郡品川町に新工場を建設したことになんていいます。その後、



創業者：畠山一清



『主幹 工学博士 井口在屋 所長 工学士 畠山一清』の文字が記された、のくち式機械事務所のプレート



従業員の家族や近隣企業を招いて行われる納涼祭
工場見学も実施され、業務への理解や周知の場ともなる

とても大きな工場ですが、どのような作業が行われているのでしょうか？
カスタムポンプの製造にはさまざまな工程があります。
お客さまの要望に合わせて製缶、鑄造などの加工が行われた素形材（半完成の部品）を受け入れ検査するところから始まり、工作機械や切削工具を用いて材料をさらに加工します。製作する形状に応じて、加工方法や用いられる工作機械は異なりますが、いずれも100分の1ミリの単位が求められる緻密な作業です。立体的で複雑な形状なども多い上、カスタムなのでほとんどが1点もの。職人的な技や経験が必要とされる作業が行われています。

校の校外学習などを受け入れてきました。自分の背丈の何倍もある巨大なポンプを目の当たりにして「わー！大きい！」と歓声があがり、目をキラキラさせる姿には、私たちも力をもらいます。子ども向けの取り組みとしては、ほかに千葉県教育委員会の施策である「千葉県夢チャレンジ体験スクール」で、ものづくり体験学習への協力も行っています。次世代育成という意味でも、こうした取り組みはこれからも行うつもりです。

また、社内にはトレーニングセンターも常設。社員はもちろんのこと、外部企業の方々の研修なども行っています。安全に正確な作業を行い、よりよい製品を生み出していくことが社会のためになるという考えから、さまざまな取り組みを行っています。



製作から試験まで一貫して富津工場内で行われる

富津工場では地域とのつながりなども大切にされているのだそうですね？
せっかく富津にこれだけの工場を構えさせていただいているのだから、周辺の方々との交流は積極的に行っていきたいと思っています。
その一つとして、工場見学の受け入れがあります。これまでに富津市内の小学

隣幼稚園のマーチングバンドなどにパフォーマンスを披露していただいたこともありました。頑張っている子どもたちの姿は私たちの励みにもなりますし、たくさんの方々に楽しんでいただけていましたので、これからもそうした場を設けていきたいなと思っています。
同時に、荏原製作所がどんなものを作っているのか、世の中のどんなところで役立っているのか、そういったことを知っていただき、理解を深めていただけたら嬉しいですね。



巨大ポンプを製作する現場でありながら、とても繊細な作業が行われているのですね。
河川洪水対策用などの大型ポンプは口径が3メートル以上になるものもありま

錆、美観（色）、付加価値（防汚等）の3つの機能をもたせるために塗装も行います。塗装を行った後、膜厚測定検査も実施。その後、ケーシング、主軸、羽根車などたくさん部品を組み立て、ポンプは完成します。
完成後は試験を実施し、吐き出し流量や圧力などを計測。異常な振動・騒音がないかなども確認してからの出荷となります。巨大なポンプの場合一度解体して運搬、現地で組み立て設置という流れになります。
もちろんアフターメンテナンスも重要で、世界中から運ばれてきたポンプのメンテナンスもこの工場内で行っています。

今後の展望や取り組みを教えてください。
昨年、荏原グループは大きな組織変更を行いました。これまでの製品別組織から、よりフレキシブルでお客さま目線の対応ができる対面顧客別組織への変更です。荏原製作所の事業は大変幅広く、さまざまな製品を取り扱っています。そのため、これまでとはひとりのお客さまに対して製品ごとに営業担当が発生したり、対応にお時間をいただいていたことが多くなりました。そこで、同じ担当者が一括して窓口となれるような組織改革を行いました。この体制を機能させていくためには、社内でのコミュニケーションが重要です。情報の共有などを積極的に行っていき、お客さまに寄り添う組織に成長させたいと思っています。
また、会社設立当初から受け継がれている「社会の課題を解決したい」という思いに基づいて、今後も環境負荷を少な

ですが、製作の単位は100分の1ミリなんです。重量もありますので、作業の安全確保には非常に気を使っています。指差呼称プロジェクトでは、皆で工場を回り「右よし、左よし」などの動作と声出しを徹底する取り組みを行っています。ほかにも、「工場内の移動はモノが優先」というルールの徹底など、細かな決まりを全員がしっかりと守るように常に緊張感を持って業務に取り組んでいます。
ヒヤリハットと言われる「重大な災害や事故に至らないものの、一歩間違えれば直結してもおかしくない場面」があった場合も報告し、内容の登録を実施して



事故防止策として、徹底して行われる指差呼称



株式会社 荏原製作所

本社所在地：東京都大田区羽田旭町11-1
富津工場所在地：千葉県富津市新富78-1
事業内容：ポンプ、冷熱機械、送風機、コンプレッサ・タービン、都市ごみ焼却プラント、産業廃棄物焼却プラント、真空ポンプ、CMP装置、排ガス処理装置、めっき装置
HP：https://www.ebara.co.jp/
創業：1912年（大正元年）



富津工場について詳しくはこちら!!